## 国体に向け、コース整備順調。キャディーさん募集も。

新型コロナで明けた2021年も東京五輪、パラリンピックを乗り越えコロナ感染者も劇的に減少し、ウイズ・コロナの新日常が期待されるようになった。塩原カントリークラブも来年秋に開催される“いちご一会”国体への準備に拍車がかかりそうだ。

国体競技で使われる南・北コースを中心に、昨シーズンから整備が進められ、とくに今年はグリーン周りの裸地の解消に重点が置かれた。冬季の日照不足に弱いコウライ芝をベント芝への張替えによって克服すべく、10 月中にグリーンの外側に幅約 30 ㌢のベント芝を張る作業が完了して、見違えるようになった。

また、毎週金曜日にボランティアによって行われている整備作業も継続されており、古参メンバーからも「国体競技をやっても恥ずかしくないコースに仕上がって来ている」という声が高まっている。過去に国体会場となったコースでは、開催年の5月の連休後にJGA（日本ゴルフ協会）の視察を受けて最終的な整備に踏み出すが、塩カンでは年内にも視察を要請し、改善点についてのアドバイスを受け、春からの整備に万全を期すことにしている。

一方、大会は 10 月 5 日が練習日、6、7 日が本選となる。今大会は 4 サム制（1 組 4 人でプレー）で行われ、3 サムだった茨城国体に比べ組数が減るため、キャディーさんも 36 人ほどで間に合うことになった。それでも、塩カンの専属キャディーのほか 25 人程度が必要となりそう。ゴルフクラブ側が周辺のゴルフ場などに声をかけ、協力を求めることにしている。

キャディーさんには、出来るだけ大会期間中の 3 日間を通して担当してもらえればありがたいとう。今年夏に行われたリハーサル大会では、カントリークラブのメンバーが汗を流したフォアキャディについては、那須塩原市の国体推進課がメンバー以外から要員を集めることにしている。国体開催をめぐっては、経費の節約も目標とされ、派手さよりは実のあるスリムな大会となりそうだ。

【北コース No.5】

張替え前

⇒

張替え後

## 今年の冬季料金決まる（12月1～3月4日）。

2021 年 12 月 1 日から 2022 年 3 月 4 日までの冬季料金が決まった。12 月 1 日から 1 月 10 日までをセミシーズン期間、1 月 11 日から 3 月 4 日までの 2 期間にわけて設定されている。料金は以下の通り（単位は円）。

〇セミシーズン（12 月 1 日～1 月 10 日）

| | 平日（火曜日以外） | 土・日・祝日 | 火曜日 |
|---|---|---|---|
| 正 会 員 | 4,900 | 5,400 | 4,300 |
| 平日会員 | 4,900 | 5,400（土曜日）<br>8,600（日・祝） | 4,300 |
| ファミリー会員 | 5,400 | 8,600 | 5,400 |
| メンバー同伴・紹介 | 5,900 | 9,100 | 5,600 |
| ビジター | 7,200 | 10,600 | 5,900 |

〇冬季シーズン（1 月 11 日～3 月 4 日）

| | 平 日 | 土・日・祝日 |
|---|---|---|
| 正 会 員 | 3,900 | 4,100 |
| 平日会員 | 3,900 | 4,100（土曜日）<br>6,100（日・祝） |
| ファミリー会員 | 3,900 | 6,100 |
| メンバー同伴・紹介 | 4,100 | 6,500 |
| ビジター | 4,100 | 7,200 |

※1 月 3 日（月）は、土日祝日料金となります。
※12 月 31 日（金）、1 月 1 日（土）、1 月 31 日（月）は休場日となります。

## 来年 9 月 30 日まで。期間限定で国体開催の個人会員募集。

塩原カントリークラブでは2022年秋の「いちご一会とちぎ国体」の開催を記念して、11 月 1 日から来年 9 月 30 日までの期間限定で、新規の個人会員を募集している。

会員種別は個人正会員で、募集金額は 17 万円（消費税込み）で。現行の募集価格 25 万円に比べ 30 ㌫低い特別価格となっている。募集口数に制限があり、制限到達時に終了となる。年齢制限はないが、当クラブの入会審査がある。

## 塩原カントリークラブは 11 位にランクを上げる。県クラブ対抗。

第 2 回の県クラブ対抗競技大会は 10 月 26 日、宇都宮CC（宇都宮市）で開かれた。各クラブ 6 人でチームを編成、昨年より 2 チーム多い 31 チーム 185 人が参加、上位 5 人の合計スコアで戦った。

緑川文雄選手、鈴木英利選手、佐藤幸由選手、前田智選手、中井和彦選手、高塩篤宏選手の 6 選手で臨んだ塩カンチームは合計 406 のスコアで 11 位だった。昨年は 19 位で大幅なランクアップで来年が楽しみな健闘をみせた。優勝は矢板CC、2 位はアローエースGC、3 位は鹿沼GCだった。

## 塩原カントリークラブ！攻略編！！【中コース】　― 中里　鉄也プロ ―

### ☆中コース１番 ☆

【コース解説】
やや左ドッグレッグのロングホール！

【中里プロからのアドバイス】
１打目は、２打目が打ちやすいようにやや右に打っていきたい。
２打目は、残り 200 ヤードから 50 ヤード付近フェアウェイに松の木数本と右側にバンカーがある為、距離と方向性の正確さが求められるショットになる。
グリーンは左側手前と奥から、右側センターやや奥から傾斜が有るので、真ん中に乗せた方がパッティングしやすい。

次回は、中コース２番を紹介します!!

## 那須の小天狗――小針春芳伝⑫

井上　安正

小針春芳が愛用したクラブはアメリカのウイルソン社のスタッフブランドだった。ウイルソン社はもともと精肉業だったが、牛の皮やスジを利用してスポーツ用品お製造、販売を始めた。一九一四（大正三）年からゴルフ用品を開発、一九二二（大正一一）年にはジーン・サラゼンとアドバイザリー契約を結び、サンドウェジを発売したことでも知られる。

ウイルソン社がもともとは精肉業者だったように、アメリカのゴルフ用品メーカーのブランドの由来を辿ると面白い。パワービルト社は鍛冶屋で、刃物も作っていたから、それを使って野球のバットを製造していた。その後、一九一六（大正五）年からゴルフクラブにも手を広げ、ドライバーの名品を世に出した。鍛冶屋時代に馬の蹄鉄を作っていたのにちなんで、クラブに刻印するロゴは蹄鉄にした。マグレガーは靴の木型製造会社にいた職人が、木工技術を生かしてドライバーに製造を始めたのが興りで、アイアンクラブは後発ということになる。

小針がウイルソン社と用具契約を結んだのは、二度目の日本オープン優勝の後だった。橘田規と一緒に契約したが、日本のプロの契約第一号だった。小針が用具の契約先として、ウイルソンを選んだのは、霞ヶ関カンツリー倶楽部のプロ室でホコリをかぶっているパターを見つけ、修理をして実戦で使い続け、日本オープンを取った「カラミティー・ジェーン」がウイルソン社製だったからにほかならない。

「L」字型で薄く、軽く、スイートスポットがネック寄りにあり極めて狭い。球聖といわれるボビー・ジョーンズが愛用したが、使いこなすのは難しいといわれたパターだった。小針はキャディーの頃、藤田欣哉がこれでカップインを重ねたのを見て「いつかは自分も」と憧れた。

ウイルソン社からは毎年、シーズンインを前にフルセットを送ってもらう。シャフトの硬さ、バランスなどは事前に指定しておく。シーズン途中で、ドライバーなどが合わなくなれば、単品でのオーダーにも対応してくれた。金銭的なものは契約に含まれず、グラブなどを加えた物品の提供だけだった、ただ、海外遠征の際には、旅券手続のサポートを受けることが出来てありがたかった。

小針のクラブのうちドライバーは重い方で、硬くて重いXシャフトを頼んだ。その理由を小針はこう説明した。「ドライバーはティーアップして打つから、ボールの状態は一定している。打つ時に、手で小細工をしないために重さが欲しいのです」。バランスは「D5」と指定していた。腕や手首に無駄な動きをさせないように、小針らしい計算だった。

ボールはダンロップと契約した。番号はニューギニアで死線をさまよい、やっとの思いでそれを脱したから、「死線を越える」意味で「5」を印字したものを、年間で二十ダース提供してもらった。ウエアはマンシングの世話になった。

あやかったわけではないが、ウエアは日本シリーズの初代チャンピオンの石井朝夫と同じマンシングを選んだ。契約の前に大阪の本社へジャンボ・尾崎と一緒に行き何着かのウエアをもらった記憶があるが、その経緯は思い出せない。ゴルフ担当のスポーツライターから、小針に冠せられた言葉に、「地味」の二文字があった。多分にそれは、小針のウエアがもたらしたイメージだった。小針は上は白の無地、ズボンは黒といっても、紺系の黒が好みで、白系は絶対にはかなかった。

「柄物はだめなんです。無地でないとアドレスした時に、柄がチラチラと気になって集中出来ない。帽子もやや小さめのをキッチリかぶるのがいい」

ウエアは小針の希望に沿って、年間でシャツ一〇枚前後、スラックス五、六本、セーター四、五枚が提供された。それに帽子、靴下などだった。もっともこうしたこだわりは、試合の時だけで、イベントでニッカーボッカーをはくこともしばしばあった。小針はいやがるどころか、そうしたコスチュームも喜んで、むしろ楽しむところがあった。決してかたくなではなかった。自分で買うのはスパイクとティーくらいだが、ティーは自前のものにするため少し加工した。これは、小針のスイングと関係する。

一九六一（昭和三六）年には関東オープンで優勝した。その一月には初めて太平洋を渡った。アメリカの「ラッキー・ラガー招待」というトーナメントに、橘田と出場した。ゲーリー・プレーヤー（南アフリカ）が12アンダーで優勝、日本勢二人は、二日目で敗退だった。

この時、アメリカという国を広く見聞した。まず、何事にもスケールの大きさに度肝を抜かれた。日本では見たことがないような高いビルが林立する。それをぬうように道幅の広い高速道路が走り、大きな車がビュンビュン飛ばす。日本では、庶民には車は高嶺の花の時代だった。「なぜ、こんな国と戦争をやったのか。勝てないわけだ」と変に納得した。そして、遠くニューギニアで散った戦友たちに思いをはせた。

この年、竜ヶ崎カントリー倶楽部（茨城・龍ヶ崎市）でサム・スニードを招いてエキシビションマッチがあった。スニードと林由郎、小針と中村寅吉が組んで4ボールベストの競技だった。個人スコアはスニード72、林75、中村79、小針76で、チーム戦は66対74でスニード・林組の勝利だった。

中村はスニードの低くて力強いアイアンの弾道にほれぼれとしていた。小針も霞ヶ関カンツリー倶楽部でのカナダカップと変わらずに、軸の全く崩れないスイングに再び魅せられた。スニードがかぶっていた帽子は「スニードハット」と呼ばれ、愛用者も増えていた。それは、四十九歳にしては薄くなった頭を隠すためにかぶっていたらしいとわかった。

ただ、スニードはショットのキレ具合に比べると、パットは苦手のように思えた。小針は「なぜか、スイングがきれいな人ほどパットが苦手な人が多く、クセがあるほどうまい人が多い」と確信を持つようになった。それは、ここでスニードのパットを見てからだった。

この年には、十一月に読売ゴルフ場（神奈川・川崎、パブリックコース）で開かれた読売プロゴルフ選手権にアーノルド・パーマー（アメリカ）、ゲーリー・プレーヤー（南アフリカ）が招かれた。パーマーは大柄で、インパクトの瞬間は地響きが鳴るようだった。独特のハイフィニッシュのフォームではじき出されるボールは、パーシモンのドライバーで300ヤードは飛んでいた。小針は最終日に同じ組で回ったが、常に30ヤードは置いていかれた。10番パー5で、小針の第3打の残りが130ヤードだったのに、パーマーはエッジまで10ヤードしかなかった。

優勝したのは「南アの黒豹」・パーマーだった。日本人と余り変わらない身長で細身だったが、腕は丸太のようでさすがに迫力があった。普段はそれほどの距離ではないように感じたが、思い切って振った時の勢いはさすがだった。しかし、一打一打に極めて慎重で、見ていて息が詰まって来るようだった。パットとなるとなおさらで、イライラさせられるホールが多かった。最終日9番パー4（449ヤード）で2打目をバフィー（4番ウッド）で直接入れたイーグルには脱帽のほかなかった。

小針はこの時ほど、外国の一流プロのパワーの強さを見せつけられたことはなかった。この大会の映画ニュースが残っている。ギャラリーを引き連れたパーマーの姿が映り、アナウンサーは「陳（清波）と小針が食い下がったが届かなかった」と伝えている。

小針がスニード、プレーヤー、パーマーの三人について寸評している。スニードは「百回スイングしても寸分の狂いのない、同じスイングを繰り返せた。見事なタイミングだった」。プレーヤーは「一番強かったと思う。並外れた集中力。グリップの長さほどのパットでも集中した。そして、『スーッ』と始動する。（あんなに集中したら）ワイだったら手が動かなってしまう」。パーマーは「迫力を感じさせた。それも、半端な力じゃなかった」という。「三者三様」。「ワイとしてはスニードを見習おうとした。しかし、体格も違うしとうとう盗めなかった。ただ、歩き方だけは盗んだよ」と笑った。

こうした修練の場に身を置けたのも、霞ヶ関のカナダカップでの、中村、小野組の優勝あったからにほかならないと、感謝するばかりだった。「ゴルフブーム」という言葉が生まれたのも、中村、小野組の優勝後だった。ゴルフ場の開発に各地で弾みがついた。テレビの放映で、民間トーナメントにスポンサーがつき、トーナメント数も増え始めていた。

（つづく）

## 編集後記

　オリ・パライヤーも残すところ１か月余となってしまった。新型コロナで明け、感染拡大の数字がいつも頭の中に幕を張っていた年だったような気がするが、ゆっくり振り返ってみれば、スポーツ界の世界的話題に事欠かなかった。東京五輪の大量メダル獲得、マスターズでグリーンジャケットを着た松山英樹、アメリカ大リーグで数々の賞を受賞した二刀流の大谷翔平・・・。11 月に入ってコロナ感染も急激に下火になったが、忘年会、正月など冬の人出の時期を迎えて、第 6 次の感染拡大の心配も皆無ではないという。塩カンのクラブハウスのレストランにも県から「とちまる安心認証店」のお墨付きがおりた。感染防止策に合格点をもらったわけで、マスク、3 蜜防止、換気など日常の基本的な防止策を忘れずに年を越したいものである。

井上　安正